平成２５年度学校評価

～平成２６年度に向けて～

１　平成２５年度の学校評価

（１）平成２５年度の重点目標

ア　学ぶ意欲の喚起を目指した授業改善の推進

イ　自己有用感・帰属意識の醸成

ウ　保護者・地域・中学校への情報発信の充実

（２）平成２５年度の学校関係者評価を実施する主な評価項目

ア　生徒の主体的な活動を促し興味関心を高めるための授業改善について

イ　生徒に充足感を与えることができる教育活動の推進について

ウ　本校の教育活動をよりよく伝えることのできる情報発信方法について

（３）重点目標の達成に向けた取組と評価

ア　生徒の主体的な活動を促し興味関心を高めるための授業改善について

主　な　取　組	自　己　評　価
（ア）授業参観週間を設定した。その中で各教科が研究授業を実施し、言語活動を充実させ、生徒が主体的に活動する授業について話し合いを持った。【教務部】 教員による授業参観	教員が自由に授業参観できる期間を前期後期１週間設定し、研究授業で試みた指導法や評価法、アンケート結果等について教科会で議論し実践に生かした。 板書については、構造化の視点をもち、工夫する必要がある。 プロジェクターを使った授業
（イ）生徒の学習意欲を喚起するため学習評価の研究を継続的に行った。【教務部】	学習評価については、授業中のノート点検など、取組や意欲を積極的に評価するための工夫を試みた。また、課題の提示の仕方を工夫し、課題の取組を評価するとともに家庭学習の充実を図る。
（ウ）高大連携事業（名古屋文理大学との連携）を年間を通じて実施した。大学の教員による講義の実施や生徒を研究室に派遣することなどをし、主体的に学習する姿勢を育成した。【教務部】 名古屋文理大学での実験実習	高校だけでは実施が困難な実験・実習が可能となり、生徒の学びへの興味を引き出すことができた。夏休みを利用して研究室に生徒を派遣し、連携の内容をより深化させることができた。 連携をもう少し教育活動全般に広げ、本校の特色の一つにする。 研究室との連携

イ　生徒に充足感が与えることができる教育活動の推進について

主　な　取　組	自　己　評　価
（ア）ボランティア活動（マナーアップ作戦、境界なき清掃団）を実施し、自己有用感を感じさせる取組をした。 【特別活動部】　交通安全運動マナーアップ作戦	マナーアップ作戦に約 70 名、境界なき清掃団に約 160 名の参加があり、生徒の自己有用感の醸成につながった。参加人数を維持しながら、取組の意識を向上させ、質の向上を目指さなければならない。 地域の清掃活動（境界なき清掃団）
（イ）インターンシップへ積極的な参加を促し、望ましい自己のあり方を考えさせるきっかけとした。　【進路指導部】	参加者は、貴重な経験を積み進路選択に対して大きな刺激となり、高い充実感をもった。事業所の新規開拓に努めるのが課題である。
（ウ）様々な方法で稲東祭の活性化を図った。稲東祭実行委員会の活動をさらに充実させ、生徒会とタイアップし、稲東祭の様々な場面で、生徒が主体的に取り組むことが出来るようにした。 【特別活動部】　ダンスの発表	稲東祭実行委員会の生徒が主体的な姿勢をもって企画・運営に取り組むことが出来た。 「稲沢発見」をテーマとして、稲沢市、荻須記念美術館、名古屋文理大学、稲沢高校、たんぽぽハウス等地域の行政機関や学校、団体と連携して開催した。生徒アンケートでは「稲東祭を楽しめた」という回答が 97%にのぼった。 よりよい発表のためには発表内容を具体化しやすいテーマを設定する必要がある。
（エ）部活動を活性化し、参加意欲を高めるようにした。年３回参加状況調査を実施し、参加していない生徒を把握し、参加を促すなどした。 【特別活動部】　県大会に出場した演劇部	１年生の部活動への参加状況は 10 月に実施した調査の結果では 70%であった。生徒の参加意欲を喚起することができたことや転部希望の際に各学年や部活動との連携が機能した結果であろう。 また、剣道部、理科部が平成 25 年度から復活した。活発に活動している。ソフトボール同好会を発足させた。ただし、教員の数も限られた中での活動であり、部の廃止も考えていかなければいけないだろう。

ウ　本校の教育活動をよりよく伝えることのできる情報発信方法について

主　な　取　組	自　己　評　価
（ア）稲東だより（本校広報紙）の中学校、地域町内会への配布を行った。 【特別活動部】	「稲東だより」を計画的に発行し、関係中学校及び地域の皆さんに本校教育活動への理解を深めてもらう一助となった。近隣の中学生からの体験入学参加者が増加したことも成果のひとつだろう。

主　な　取　組	自　己　評　価
（イ）中学生体験入学（８月）と中学生学校説明会（10 月）の充実を図り、参加者を増やす。【教務部】 「地歴公民」の授業体験（８月）	８月の中学生体験入学の参加数が前年度よりも増加し、412 名の中学生・保護者参加があった。また、10 月の中学生学校説明会は昨年度とほぼ同数の約 100 名の中学生・保護者の参加があった。いずれも DVD の視聴により本校の教育活動の特色を参加者に理解していただいた。また、当日は在校生や卒業生が積極的に運営の補助にあたり、参加者に本校生徒の姿をとおして本校の魅力を伝えるよう努めた。このことは、本校生徒にとっても学校への帰属意識を高めるうえで成果があったと考えている。

（４）学校関係者評価委員会での御意見

・最近の稲沢東高校の生徒の登下校の様子を見ると、表情が明るくマナーの良い生徒が目立つようになってきた。目標に向かって、まっすぐ向かっている印象を感じる。
・授業が落ち着いて出来ている様子がうかがわれる。授業で改善を要するところとしては、板書のありかたである。板書を見ただけで、何をしたか、思考過程が分かる板書を工夫すべき。また、発問に対する答えが対教師になっている。発問に対する返答は教室全体になされるべき。
・保護者のＰＴＡ活動への積極的な参加は学校活性化において大きな原動力となっている。ＰＴＡ活動がより活性化することを望む。
・地域に学校の様子を伝えることは大切なことで、稲東だよりを近隣に配布していることはよい。地域へのより充実した情報発信に努めてほしい。

２　平成２６年度の重点目標等

（１）平成２６年度の重点目標

ア 学ぶ意欲の喚起を目指した授業改善の推進
イ 自己肯定感・自己有用感・帰属意識の醸成
ウ 望ましい未来像設計（フューチャーデザイン）の啓発
エ 保護者・地域・中学校への情報発信の充実

（２）重点目標の達成に向けた取組

ア　学ぶ意欲の喚起を目指した授業改善の推進

主　な　取　組	具 体 的 方 策
(ア) 生徒の取組の意欲を喚起する魅力ある授業づくりを行う。また、学習評価についてさらに研究を進める。【教務部・各学年】	授業での言語活動を充実させ生徒が主体的に活動する授業づくりを研究する。また、関心・意欲・態度を適切に評価する方法を研究する。生徒の生活状況や学習状況等を分析し、学習指導に資するための学習検討会を充実させる。
(イ) 生徒が落ち着いて授業が受けられるよう、学習環境の改善に努める。【教務部・保健厚生部・生徒指導部・各学年】	教室の机を整然と並べ掲示物を整え、ロッカー周辺の私物の整理を徹底する。学ぶ環境を整え、授業にのぞむ姿勢を身に付けさせる。

主　な　取　組	具 体 的 方 策
（ウ）高大連携事業の充実、ＳＰＰの活用 【教務部】	本年度名古屋市科学館と名古屋文理大学との連携でＳＰＰに採択された。それらを活用することにより、生徒が主体的に学習する姿勢を育成する。

イ 自己肯定感・自己有用感・帰属意識の醸成

主　な　取　組	具 体 的 方 策
（ア）稲東祭（文化祭・体育祭）の充実を図り、生徒に達成感をもたせる。稲東祭満足度 90%以上を目指す。 【特別活動部】	稲東祭実行委員会の活動をさらに充実させ、生徒がより主体的に活動できるようにする。１年生に対する稲東祭説明会を実施し、資料の提示、アイデアの紹介をする。具体的なテーマを設定し、アイデアの絞り込みをしやすくする。
（イ）部活動を活性化させ、参加率を１年生は 70%以上、２年生は 50%以上になることを目指す。　【特別活動部】	新入生に対する部活動紹介を全校生徒が参加する行事として実施し、部活動への参加意欲を高める。また、７月、10 月、３月に部活動参加状況調査を実施し、適時的な指導ができるようする。
（ウ）ボランティア活動の推進。【特別活動部】	地域と積極的に連携しながら、奥田駅周辺の清掃、自転車置き場の整理など身近な生活環境、公共の場での活動に取り組ませる。校内美化活動、挨拶運動を実施する。

ウ 望ましい未来像設計（フューチャーデザイン）の啓発

主　な　取　組	具 体 的 方 策
（ア）一人一人の生徒に具体的な将来の姿（未来像）を考えさせ、充実した学校生活の原動力とする。【進路指導部・特別活動部・各学年】	グローバルなビッグイベントであるオリンピックが東京で開催される 2020 年にどのような立ち位置で社会貢献しているかを文章表現するなど、具体的に考えさせ、進路指導に役立たせる。
（イ）進路講演会、キャリア教育の充実。 【進路指導部】	生徒が自らのあり方・生き方を考える機会を充実させるため、積極的に外部講師を活用し、視野を広げられるように援助する。また、キャリア教育をより充実させて、生徒が社会性や職業意識を身につけられるように支援する。
（ウ）学年集会、総合学習、ＬＴ、個人面談の活用【教務部・進路指導部・各学年】	多くの様々な場面を利用して、進路意識の高揚を図る。生徒個々に適した進路目標を設定させる。

ウ　保護者・地域・中学校への情報発信の充実

主　な　取　組	具 体 的 方 策
（ア）８月の中学生体験入学、10 月の中学生学校説明会の内容を充実させ参加者を増やす。 【教務部】	体験入学、説明会とも在校生を運営に携わらせたが、よい評価を得た。平成 26 年度もできるだけ多くの在校生や卒業生に運営の補助を求め、本校の活力を伝える工夫をする。また、より多くの中学生や保護者の参加が得られるよう広報に努める。
（イ）本校広報紙、「稲東だより」の配布・掲示の充実。　【特別活動部】	「稲東だより」を地域の掲示板、公共的な場所、商店等に掲示していただけるよう地域に協力をお願いする。また、緑八町連合会会長に依頼し、各家庭で「稲東だより」が閲覧できるよう依頼する。